

パスにおける薬剤師への期待  
Expectation of Pharmacist in Clinical Pathways

○阿部 俊子<sup>1</sup>(<sup>1</sup>東京医歯大院)

クリニカルパスの進化に薬剤師の役割は不可欠である。クリニカルパスは、「現在行っていることを並べたパス」という第一世代から、EBM の導入された第二世代に進化することができる。その EBM 導入のされた標準化されたばらつきのないパスというのは薬剤の標準化をなくしてはできない。それには薬剤師のかかわりが重要である。

標準医療計画であるクリニカルパスの中で根拠のある適切な薬剤が使用されているか、用法、試用期間も含めた用量は的確に設定されているか、副作用や治療効果のためのモニタリングはできているか、必要な薬剤指導が行われているのか、これらはクリニカルパスを作成・運用していくときに薬剤師が関わる必要のある分野である。さらにはクリニカルパスの運用の際に、いかにチーム医療の中で患者も含めた医師や看護師の薬剤教育とモニタリングを行っていくかも重要である。現在、「安全な薬剤管理体制と薬剤指導のありかた」を薬剤師の方々と検討している。それらの薬剤体制をシステムとして、いかにクリニカルパスに組み込んでいくのかも含めて今回は発言したい。

薬学教育が6年制導入となり、その期待される役割は大きい。薬剤師による薬剤の標準化、患者や医療者に対する薬剤師による教育介入の経済効果は大きいと諸外国でエビデンスがある。それを日本でも実行することがいま、薬剤師に求められている。